

平成 24 年度 事業報告書

I. 社会貢献啓発事業（公益目的事業 1）

1) 機関誌「フィランソロピー」（1992 年 1 月創刊）の発行（今年度より年 6 回に変更）

当協会の活動報告とともに社会の課題を抽出し、それを特集として企画・編集している。企業の社会貢献活動はじめ CSR 関連情報、NPO/NGO の活動や提言を掲載する。

今年度は、フィランソロピーの原点ともいえる人間の“いのち”や“幸福”を考える特集や、社会的な関心の高い「教育」や「プロボノ」をテーマとして取り上げて、各分野における世論先導者や先進企業や NPO を取材し、その活動が広がるように多くの事例や提言を紹介した。

平成 24 年度	特 集
No. 349 (4-5 月号)	第 9 回企業フィランソロピー大賞
No. 350 (6-7 月号)	生と死への道しるべ～仏教の力～
No. 351 (8-9 月号)	学校教育を支える民間のちから
No. 352 (10-11 月号)	多様性を活かす、ワーク・ライフ・マネジメント
No. 353 (12-1 月号)	広がるプロボノのニーズと可能性
No. 354 (2-3 月号)	第 15 回まちかどのフィランソロピスト賞

2) インターネットを利用した情報提供事業

- ・メールマガジンを定期的に発行。（毎月 1 日・15 日配信 配信先登録数 約 7,000 件）
- ・ホームページを随時更新している。

平成 24 年 10 月より、機関誌の内容を日経テレコンに掲載を開始した。10 月から 3 月の 6 ヶ月間に、2,229 件のダウンロードがあった。

3) 被災地青少年支援企業事例集

東日本大震災で被災した子どもたちへの支援を行なう企業の事例をまとめた冊子を発行し、会員企業および掲載企業各社へ贈呈した。

II. 社会貢献促進事業（公益目的事業 2）

1) セミナー、勉強会

① 定例セミナー

主に企業の CSR・社会貢献担当者を対象としたセミナーを下記のとおり開催した。

今年度より、幹事企業制度を廃止し、事務局にて企画運営を行なっている。企業の被災地復興支援活動を 2 回取り上げ、本業を活かした支援や社員の被災地ボランティアの好事例を紹介した。7 月には、会員企業の社内音楽バンドの協力を得て東北応援のためのチャリティコンサートを企画。CSR/社会貢献担当者だけでなく、一般の参加者に向けたセミナーとして開催した。

実施日	テーマおよび講師
第 271 回 4 月 19 日	サステナビリティと社会貢献～これからの 5 つのポイント～ 嶋田 実名子 氏（花王株式会社 理事 コーポレートコミュニケーション部門 サステナビリティ推進部長 兼 社会貢献部長）

第 272 回 5 月 17 日	NPO の評価を考える～真の社会課題解決に向けて～ 田中 弥生 氏 (独立行政法人 大学評価・学位授与機構 准教授 / 国際公共政策博士)
第 273 回 6 月 13 日	コミュニティと協働した企業の復興支援を考える ◆トヨタ自動車株式会社 (清水 義昭氏 社会貢献推進部 企画室 文化活動グループ長) ◆UBS 証券株式会社 (堀 久美子 氏 Executive Director, Community Affairs & Diversity)
第 274 回 7 月 6 日	被災地を忘れない! Philanthropy Night～東北の希望を魅せる写真と、室内楽のコラボレーション～ ◆演奏:NEC ソフト管弦楽団 (NEC ソフト株式会社) 日立フィルハーモニー管弦楽団 (株式会社日立製作所) ◆トーク:写真家 管 洋志 氏
第 275 回 9 月 20 日	自然資本を基盤とした経済」～Rio+20 以降の環境経営～ 足立 直樹 氏 (株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役)
第 276 回 10 月 30 日	企業の被災地支援に対する社内外の理解促進のために ◆味の素株式会社 (沖田 憲文 氏 CSR 部 部長) ◆ソフトバンクモバイル株式会社 (池田 昌人 氏 人事総務統括 総務本部 CSR 企画部 部長)
第 277 回 11 月 15 日	グローバルな企業展開と多様化する人権問題 ◆若林 秀樹 氏 (公益社団法人アムネスティ・インターナショナル日本事務局長)
第 278 回 12 月 19 日	ISO26000 の最新状況～コミュニティへの関わりと人権問題 ◆黒田 かをり 氏 (一般財団法人CSOネットワーク 事務局長・理事)
第 279 回 1 月 22 日	試練の時を迎えた CSR—企業とビジネスマンの真価が問われる ◆松岡 紀雄 氏 (神奈川大学名誉教授)
第 280 回 2 月 18 日	“変化の時代” —今、事業主に求められる気付きと対応— ◆秦 政 氏 (特定非営利活動法人障がい者就業・雇用支援センター理事長)
第 281 回 3 月 14 日	被災地の青少年への支援—東北の現在とこれから ◆フィリップ モリス ジャパン株式会社 (長谷川 徳生 氏 コーポレートアフェアーズ コミュニケーションズ / CSR・社会貢献マネジャー、山尾 ゆり 氏 コーポレートアフェアーズ ガバメントアフェアーズ アシスタントマネジャー) ◆菊池 信太郎 氏 (小児科医・NPO 法人郡山ペップ子育てネットワーク理事長)

② Stone Soup Club (ストーン・スープ・クラブ)

会員企業限定の勉強会として開始したプログラム。3 年目となる今年度より、会員企業のご担当者の声を反映できるよう、企画運営を下記幹事企業にお手伝いいただいている。

今年度幹事企業

- ・株式会社ジェーシービー、
- ・フィリップモリスジャパン株式会社
- ・多摩信用金庫

10 月には震災後 3 回目となる被災地訪問を実施。会員企業各社がこれからの支援の在り方を考えるヒントとしていただくことを目的に、行政や NPO の話に加え、地元企業の産業再生の取り組みや東京の企業による支援実践事例などを見学した。

今年度 6 回の開催で、会員企業 (111 社) のうち 27 社に他企業も加えて合計 349 名が参加した。

実施日	テーマ
第 18 回 4 月 20 日	◆社員参加型の復興支援合同企画 『東北応援チャリティーパーティー Made in TOHOKU』
第 19 回 6 月 20 日	◆中小企業の CSR—地域の課題解決のためのソーシャル・ビジネス 菅 喜嗣 氏 (株式会社 MNH 代表取締役会長) 小澤 尚弘 氏 (株式会社 MNH 取締役社長)
第 20 回 8 月 30 日	◆住み慣れた地域に障がい者が働く場と生活の場を 石崎 優仁 氏 (社会福祉法人にじの会 理事長)
第 21 回 10 月 12 日 (金) ～10 月 13 日 (土)	◆第 3 回 被災地訪問プログラム 岩手県陸前高田市、宮城県登米市、女川町、石巻市、亘理町、仙台市を訪問
第 22 回 12 月 5 日	◆社内ボランティアプログラム～企画から実現まで 藤解 和尚 氏 (株式会社ジェーシービー)
第 23 回 2 月 22 日	◆『地域活性化とソーシャル・マーケティング』 ～課題解決のためのネットワークづくり～ 井関 利明 先生 (慶應義塾大学名誉教授/社会学博士)

③ フィランソロピー・セミナー in 関西

関西地域の会員企業へのサービスと潜在顧客とのネットワーク構築を目的に、今年度から関西でのセミナーを新たに開始した。

企画運営のお手伝いを下記幹事企業にお願いをしている。

大阪ガス株式会社、積水ハウス株式会社、株式会社ユー・エス・ジェイ

実施日	テーマ
第 1 回 1 月 24 日	キックオフ・ミーティングとして、関西に拠点を置く会員企業と、今後の関西地方における定期セミナーのテーマや実施方法等について、意見交換を実施
第 2 回 3 月 19 日	自社の経営資源を有効に活用した社会貢献活動を実施している企業の事例紹介、及びグッド・プラクティスについての意見交換を実施 - 株式会社オージス総研 社会貢献活動推進室 室長 西辻 茂 氏 - 京セラ株式会社 滋賀蒲生工場 環境安全部 環境課 環境推進班 班責任者 橘井 亨 氏 - 株式会社モンベル 本社広報部 部長 竹山 史朗 氏

2) 社会参加支援事業 (コンサルテーション事業)

企業の社会貢献事業に対する企画提案 (社会貢献プログラム立案、寄付先 NPO 推薦など) と、運営 (共催・事務局など) の協力を行っている。

《社員ボランティア活動推進》

① 株式会社ジェーシービー (平成 24 年 4 月～平成 25 年 3 月末まで)

昨年実施した「50 周年社会貢献プログラム」の 2 年目として事務局を継続受託。全従業員のボランティア活動受入先団体のコーディネートを行なった。

今年度実績：全国 8 都市の 49 の団体 (NPO/NGO や福祉施設など) と連携し、2,252 人分のプログラムを紹介。合計 740 人が活動を行なった。

今回は、社内でも出来る活動に重点を置き、隔月で会議室を使ったボランティアプログラム (キワニスドールの製作や絵本の翻訳シール貼りなど) を協力 NPO と企画し開催した。

- ② アクセンチュア株式会社（平成 24 年 8 月～）
 従業員のための社会貢献プログラム事務局を受託し、下記プログラムを企画運営した。
 ・ Volunteer Day 支援（従業員ボランティア活動。平日夜や週末のプログラムを実施中）
 ・ New Joiner Program 作成（新入社員のためのボランティア活動）
 ・ 社員ボランティアハンドブック（同社が推進する社会貢献活動をまとめた冊子。1,000部を印刷し、社内および社外広報活動に活用）
 ・ 社員とその家族のクリスマス・パーティーでのチャリティ・プログラム
 （①メッセージカード作成と②「みんなで布チョッキン」の2本を実施）
- ③ 株式会社資生堂（平成 24 年 2 月～12 月末まで）
 140 周年記念企画である社会貢献プログラム「未来椿プロジェクト」への支援
 ・ 従業員のボランティア活動受入先団体の調査や推薦
 ・ 10 月 29 日（月）には、当協会が運営主体となり、「NPO 女性リーダーのためのメイク教室」を開催した。
- ④ 積水化学工業株式会社（平成 25 年 1 月～3 月末まで）
 平成 25 年度からの本格実施を見据え、パイロット版として、同社の四事業所（東京本社、大阪、筑波研究所、京都研究所）にて、当協会が企画した社員ボランティアプログラムを実施した。
 また 2 月 21 日（木）には、東京で開かれた国内の主要事業所総務担当者会議において、理事長の高橋によるレクチャーと、被災地の今を知るレクチャー、そしてボランティア活動の体験プログラムを当協会がコーディネートした。
- ⑤ 日本メドロニック株式会社（平成 25 年 3 月）
 3 月 21 日（木）から 22 日（金）実施予定の社員ボランティアプログラムの企画を作成。25 名が参加し、石巻市内の仮設団地で防カビ剤塗布や清掃活動を行なった。
- ⑥ 株式会社三井住友銀行
 来年度からの社員ボランティアプログラムの導入に向けて、パイロットプロジェクトを実施。2 月 16 日、3 月 23 日、30 日の 3 回にわたり、2 つの非営利団体でボランティア活動を実施した。

《研修事業》

- ① 日本電気株式会社（平成 24 年 9 月～平成 25 年 3 月まで）
 昨年に続き、「NEC 匠塾」の企画・事務局運営を受託。本講座は、社会のために自らを役立てたいと願う企業退職者、シニア層が貴重な人財として、NPO 等につなげることを目的としている。プログラムは、オリエンテーション、ボランティア体験合宿、基礎講座（6 回）、体験ボランティア、ワークショップにより構成され、11 名が受講し、3 月 13 日に修了式を開催した。

◆オリエンテーション	
9 月 7 日（金）／9 月 10 日（月）	ファシリテーター： 宮地 勘司 氏（㈱教育と探求社 代表取締役社長）
◆ボランティア合宿	
9 月 14 日（金）～15 日（土）	社会福祉法人太陽福祉協会 日の出太陽の家 （一泊二日）
◆基礎講座	
第 1 回 9 月 25 日（火）	講師：松岡 紀雄 氏（神奈川大学 名誉教授） 「社会の変化と“新しい公共”の担い手」

第2回 10月2日(火)	講師：高橋 陽子(公益社団法人日本フィランソピー協会理事長) 「NPO、社会企業とは何か ～その現状と課題」
第3回 10月9日(火)	講師：川添 高志 氏(ケアプロ株式会社 代表取締役社長) 「ソーシャルベンチャー ～事業性と社会性を両立する事業の実践」
第4回 10月25日(木)	講師：石川 治江 氏(NPO 法人ケアセンターやわらぎ 代表理事) 「変化に先んじて仕組みを創り出す～福祉・介護の現場から」
第5回 10月31日(水)	曾根原 久司 氏(NPO 法人えがおつなげて 代表) 「地域資源を活用した課題解決へのアプローチ ～限界集落再生への挑戦」
第6回 11月13日(火)	講師：堀池 喜一郎 氏(好齢ビジネスパートナーズ 世話人、シニアの地域参加 指南) 「セカンドライフの挑戦～シニアの社会貢献と自己実現」
◆体験ボランティア	
11月～12月	<受入団体> ・社会福祉法人「朋」(横浜市栄区) ・NPO 法人日の出太陽の家ボランティアセンター (東京都西多摩郡)
◆ふりかえりのワークショップ	
2月8日(金)	道端留学 ホームレスの雑誌販売のビジネスを自ら路上にて体験し、貧困問題への理解促進と、自分自身と社会との関わりについて振り返り、新たなチャレンジへのつなぐ機会とする。 協力団体：NPO 法人ビッグイシュー基金 有限会社ビッグイシュー日本
◆修了式	
3月13日(水)	修了証の贈呈および塾生によるプレゼンテーション

⑥ 「CSR推進担当者育成事業：CSR講座」(住友金属鉱山株式会社)

企業内各部署で任命されたCSR推進員を対象とした研修プログラムを企画・実施した。

期間：平成24年10月～平成25年3月

プログラム内容

I部	基礎教育	10月22日 1. 住友金属鉱山担当部署部長によるレクチャー 2. 講義「CSRの必要性について」 講師：高橋 陽子(公益社団法人日本フィランソピー協会 理事長)
II部	CSR講座	11月20日 「社会の活力と企業フィランソピー」 講師：松岡 紀雄 氏(神奈川大学 名誉教授)
		2月26日「CSRを社内に浸透させるためには～花王の事例から」 講師：嶋田 実名子 氏(花王株式会社 理事 コーポレートコミュニケーション部門 サステナビリティ推進部長 兼 社会貢献部長)

Ⅲ部	NPO訪問 (レクチャー、施設見学)	1月15日 NPO 法人荒川クリーンエイド・フォーラム
		1月22日 NPO 法人育て上げネット
		1月29日 精神障害者支援 NPO「多摩草むらの会」
Ⅳ部	フォローアップ セッション	今後のCSR推進に向けてのディスカッション

《基金・助成金事務局》

①株式会社三井住友銀行

昨年度に続き、「三井住友ボランティア基金」の運営支援を受託
当協会よりテーマ推薦枠の寄付先 20 団体の推薦と行員推薦の寄付先 14 団体の審査を行った。11月14日に審査会を実施し、計 34 団体への寄付が確定した。
テーマ推薦：自助努力では「自助努力では解決困難な事情により、経済的困難を抱える方々を支援している団体。一団体につき、100 万円を寄付。
行内推薦：本ボランティア基金加入者のである役職員が、一年以上ボランティア活動で協力している団体を推薦。一団体につき、10 万円を寄付。

②「手のひらパートナープログラム」(田辺三菱製薬株式会社)

田辺三菱製薬株式会社が創立 5 周年を機に創設した「田辺三菱製薬 手のひらパートナープログラム」の事務局を受託し、難病患者の療養・就労生活の改善等に取り組んでいる患者団体およびその支援団体への助成事業を実施した。委員会の選考を経て、12 団体に総額 916 万円を助成した。

《審査》

①「2013 年度 JT NPO 助成事業における第一次審査業務」(日本たばこ産業株式会社)

公募による申請案件 268 件について、第一次審査の実施支援を行った。12月7日、10日、11日の3日間にわたり審査会を開催し、約 70 件を選定し、次段階の審査に進める案件とした。

②「FIL Foundation Grant Program」(FIL 財団/フィデリティ投信株式会社)

英国の FIL 財団が日本で行なう寄付プログラムの事務局を担当。寄付先の調査・推薦および寄付金の受け渡し等を行う。今年度は 1 月～3 月に寄付先の審査を実施し、4 月以降に寄付金の受け渡しを予定している。

③「ボランティア賞」(第一生命保険株式会社)

同社が毎年実施している社内のボランティア活動表彰制度の審査を行なった。

④「チャレンジ・アシスト・プログラム」(東京都教育委員会)

若者が主体となつて行う社会活動に総額 100 万円の助成をする東京都の事業。今年度から当協会が審査員として加わり、第一次、第二次選考および成果発表会へ出席した。

《イベント実施支援》

① 日本製紙株式会社

「森と紙のなかよし学校」の事務局運営を受託。(6 月と 9 月の計 2 回開催)
2 日間のプログラムは、同社社員ボランティアにより運営され、社有林の間伐材を活用し

た紙漉き体験や、星空観測会などが行われた。

実施日： 6月9日（土）～10日（日）／9月22日（土）～23日（日）

活動場所： 丸沼高原リゾート（日本製紙が所有する菅沼社有林）

参加者数： 各回30名（保護者1人に小学生の子ども3人まで参加可）

- ② 東京ガス株式会社/株式会社マルハニチロホールディングス
2社協働による社会貢献プログラムを企画提案し、事務局を受託。
「シニアのためのクッキング教室」の開催（10月10日（水）「缶詰の日」）
65才以上のシニア17名（男性8名/女性9名）が参加し、缶詰の特性や活用法を学び、調理実践も行なった。
- ③ 「かんぼ キッズスマイルワールド 2012」（株式会社かんぼ生命保険）
平成24年 11月10日（土）に東京ドームシティ プリズムホールで開催された同社主催の親子イベントへ、被災地から親子24組（岩手県・宮城県・福島県各8組。1組2名まで）を招待。当協会が事務局となり、参加者の募集および連絡窓口を務めた。

3) フィランソロピーバンク

企業（従業員や顧客含む）からの寄付をNPOに繋ぐことを目的として2007年から実施している協働寄付システム。

《これまでの継続利用》

- ① 株式会社NTTデータ
「NTTデータ流バレンタイン・チャリティー」での収益金。
※今年度は、寄付先3団体を見直して新たに選定した。
- ② 王子ネピア株式会社
「nepia GENKI!」商品売上を通じたコーズリレーテッド・マーケティング。
- ③ 有限会社本牧ファイル
「アイポーチ」商品売上を通じたコーズリレーテッド・マーケティング。

《新規利用》

- ① アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc.
「Student Challenge for Change 学生みんなで作るイイコト・プロジェクト!」
※facebook上で同社が実施した学生が運営するNPOへの寄付キャンペーン。

《被災地支援を目的とした利用》

- ① 王子製紙株式会社/王子ネピア株式会社
『nepia 被災地支援活動 支える人を支えよう!』
- ② 株式会社ファンケル
『ファンケルお客様ポイント寄付』
- ③ 株式会社ジェーシービー
『5のつく日はJCBで復興支援』第二弾
- ④ 明治安田生命保険相互会社
『愛と平和のチャリティコンサート』
- ⑤ 有限会社あきゅらいず美養品
『被災者の見守り支援』
- ⑥ ゴールドマン・サックス証券株式会社
『被災地の子どもへの学習支援』

- ⑦ **株式会社資生堂**
 (パナソニック株式会社/キヤノンマーケティングジャパン株式会社/
 キリンビール株式会社/株式会社NTTドコモと協賛)
 『臨時災害FM放送局の支援』
- ⑧ **キリンビール株式会社**
 『東北“復耕”サポート』の事務局として、東日本大震災の被災農家に12自治体のJAを通じて、トラクターや田植え機などの中古農機具を含め386台の購入費総額5億2,100万円を助成した。
- ⑨ **日本郵船株式会社**
 『被災地の環境再生プロジェクト』
- ⑨ **株式会社オプトロム**
 次世代省エネ蛍光灯「E-COOL」の売上に連動した復興支援プログラム

4) 顕彰事業

①第15回まちかどのフィランソロピスト賞

推薦数：72件

第一次選考委員会 8月7日(火) 候補件数：一般部門41件 青少年部門31件

第二次選考委員会 10月18日(火) 候補件数：一般部門6件 青少年部門5件

<一般部門>

「まちかどのフィランソロピスト賞」

三木 秀夫 様 (北海道帯広市)

高嶋 早由紀 様 (兵庫県姫路市)

「特別賞」

村木 厚子 様 (埼玉県和光市)

<青少年部門> 「青少年フィランソロピスト賞」

【文部科学大臣賞】 仙台市立榴岡小学校 (宮城県仙台市)

【奨励賞】 栃木県立栃木工業高等学校 (栃木県栃木市)

京田辺市立田辺中学校 (京都府京田辺市)

贈呈式

日時：平成24年12月6日(木) 15:00~17:30 (17:30より懇親会)

会場：学士会館 2階202号室 (東京都千代田区神田錦町3-28)

②第10回企業フィランソロピー大賞

・応募数：37件 (自薦16件、他薦3件、事務局推薦18件)

・第一次選考委員会 10月3日(水)

・第二次選考委員会 12月12日(水)

<大賞>

・株式会社リコー (市村自然塾)

<特別賞>

・【働く誇りを共に賞】株式会社オーグス総研 (パソコン・リユースによる障害者支援活動)

・【地域共生賞】京セラ株式会社 滋賀蒲生工場・滋賀八日市工場 (地域社会との共生活動)

・【次世代への懸け橋賞】ゴールドマン・サックス証券株式会社

(ゴールドマン・サックス・ギブズ・コミュニティ支援プログラム)

・【チャレンジ・スピリッツ賞】株式会社モンベル (モンベルクラブ・ファンド)

<奨励賞>

・ネットオフ株式会社 (スマイルエコプログラム)

贈呈式

日時： 平成 25 年 2 月 28 日（木）

会場： プレスセンターホール

5) 助成事業（フィランソロピー社会基盤整備事業）

① アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー

～NPO 次世代リーダー育成プログラム～（アメリカン・エクスプレス財団）
非営利団体で働く若手職員のリーダーシップ育成するための研修プログラム。

《アカデミー2012 フォローアップ・セッション》

日時： 平成 24 年 9 月 28 日（金）

会場： アカデミーヒルズ 49 階

講師： 米倉誠一郎氏（一橋大学イノベーション研究センター長・教授）

プログラム：オープニング・レクチャー -米倉 誠一郎先生」

フォローアップ・セッション（研修生によるプレゼンテーションと評価）

《アカデミー2013 本研修実施》

日時： 平成 25 年 2 月 28 日（木）から 3 月 2 日（土）2 泊 3 日

会場： 中野サンプラザ 研修室/アメリカン・エクスプレス 会議室

総合監修：米倉誠一郎氏（一橋大学イノベーション研究センター・教授）

研修参加者：全国 16 都府県からの NPO 次世代リーダー 24 名（公募および推薦による）

プログラム：

<基礎講座（理念・哲学）>

- ・「創発的破壊：いま何故ソーシャル・イノベーションなのか」（米倉誠一郎氏）
- ・「率先垂範のリーダーシップ」（米倉誠一郎氏）
- ・ゲストスピーカー・セッション（株式会社インサイト代表取締役 関原深氏）

<実務講座（業務遂行能力）>

- ・「ロジカルシンキングと問題解決スキル」
- ・「モチベーション・マネジメント」
- ・「顧客満足と営業テクニック」

<グループワーク>

- ・ワールドカフェによる 思い・志・課題の共有
- ・チームビルディング「自分を振り返る・自己探求の旅」
- ・課題に対する企画の作成
- ・気づきのシェアリング「フィールドワーク」（ビッグイシュー道端留学）
- ・課題プレゼンテーション発表

② 被災地における教育課題マッピング事業（新日本有限責任監査法人）

昨年 10 月から今年 4 月まで、被災地（岩手県大槌町、陸前高田市、宮城県気仙沼市、石巻市、福島県福島市）を対象に、震災後の小中学校の教育課題を調査・分析を行った。

- ・「調査報告書」を発行し、ホームページにて公開。
- ・報告シンポジウム「未来を担う人づくりと復興」開催

日時：平成 24 年 8 月 3 日（金曜日）13:30～17:00

会場：浜離宮朝日ホール 小ホール（東京都中央区築地 5-3-2）

参加者：130 名

プログラム：

○基調講演「ふるさと再生の人づくりと教育」

金子郁容氏（慶應義塾大学政策・メディア研究科 教授、SFC 研究所所長）

○教育ニーズ調査報告

桑名隆滋（公益社団法人日本フィランソロピー協会）

○NPO 教育支援活動事例報告

中川綾氏（一般社団法人プロジェクト結コンソーシアム理事）

鶴賀康久氏（NPO 法人カタリバ東北復興事業部事業統括ディレクター）

○パネルディスカッション

<パネリスト>

磯崎功典氏（キリンビール株式会社 代表取締役社長）

高橋敏彦氏（岩手県 北上市長）

徳増有治氏（経済産業省 中小企業庁経営支援部長）

長沼孝義氏（公益財団法人みちのく未来基金代表理事
/カルビー株式会社上級副社長執行役員）

藤野公之氏（文部科学省生涯学習政策局政策課長）

<コーディネーター> 金子郁容氏

③「寄付・募金を核としたサービス・ラーニング普及事業」

「サービス・ラーニング」（教室で学んだ学問的な知識・技能と、地域社会における諸課題の解決を具体的な実践活動を通じて統合させていく学びの手法）の普及活動も3年目となった。

③- (1) 郵便事業株式会社年賀寄附金配布事業

プログラム実践校へのサポートおよびお互いのネットワーク構築を行なった。各校のプログラムに応じて、訪問等を行なった。

<キックオフミーティング>

日時：平成 24 年 6 月 9 日（土）13:30～16:00

会場：アットビジネスセンター大手町三菱総研ビル 会議室

参加校：※仙台市立榴岡小学校／※東北学院中学校・高等学校／※杉並区立和泉中学校

※寝屋川中学生サミット／※神戸市立小部中学校／神戸市立鷹取中学校

※福津市立福間中学校（※：プログラム実践校）

ゲスト：毛受敏浩氏（公益財団法人日本国際交流センター チーフ・プログラム・オフィサー／地域ネットワーク主幹）

メッセージ：布村幸彦氏（文部科学省初等中等教育局長）

<報告会>

日時：平成 25 年 3 月 9 日（土）13:00～16:45

会場：東北学院大学土樋キャンパス 8号館（仙台市青葉区）

参加校：仙台市立榴岡小学校／東北学院中学校・高等学校／杉並区立和泉中学校

寝屋川中学生サミット／神戸市立小部中学校／福津市立福間中学校

基調講演：山田 好恵氏（株式会社一ノ蔵 マーケティング室 室長）

<学校・教育関係者・団体への説明>

・杉並区立天沼中学校

・杉並区立和田小学校

③- (2) 神奈川県新しい公共支援事業構成事業

神奈川県委託事業として、神奈川県内の学校関係者にアプローチを行なった。

『募金・寄付を核としたサービス・ラーニングのご紹介』という資料を 1,400 部作成し、神奈

川県内公立小中学校、及び私立小中学校全校へ送付した。また、並行して下記の通り説明会や個別訪問、研究会、フォーラムを開催し、広く参加を呼び掛けた。

<説明会>

- 6月23日(土) 10:00~12:00 8名参加
- 6月30日(土) 14:00~16:00 1名参加
- 7月14日(土) 10:00~12:00 5名参加

<学校・教育関係者・団体への説明>

- ・神奈川県教育委員会
- ・横須賀市長
- ・横浜市教育長
- ・小田原市教育長および教育委員長
- ・特定非営利活動法人シャーロック・ホームズ
- ・かわさきサポート基金

<学校での個別説明>

- ・横浜市立汐見台中学校
- ・横浜市立都岡中学校
- ・横浜市立東台小学校
- ・横浜市立市ヶ尾中学校
- ・寒川町立寒川中学校
- ・寒川町立旭が丘中学校
- ・川崎市立富士見中学校
- ・中山学院(横浜市鶴見区内私塾)

<連携中の団体>

- ・特定非営利活動法人鎌倉市市民活動センター運営会議
- ・特定非営利活動法人アンガージュマン・よこすか
- ・株式会社キャリアリンク

<研究会>

- 第1回：平成24年12月23日(日)「学校と地域のつながりを深める取り組みとは」
参加者4名(内学校関係者3名)
- 第2回：平成25年1月20日(日)「子どもに“お金”を伝える教育とは」
参加者15名(内学校関係者1名)
- 第3回：平成25年2月24日(日)「“お金”と“募金・寄付”について考える」
参加者15名(小学生7名、中学生7名、高校生1名)

<フォーラム>

- テーマ：「子どもたちの『生きる力』を育む学校のあり方とは」
- 日時：平成25年2月17日(日)
- 会場：ワークピア横浜(横浜市中区)
- 参加者：40名
- 基調講演：近藤 卓氏(東海大学教授)
「子どもたちの『生きる力』を育む教育のあり方とは」
- 実践校報告：①杉並区立和泉中学校 由井良昌校長
②神戸市立小部中学校 又吉健二校長

Ⅲ. 共生社会創造事業（公益目的事業3）

1) IT活用による音訳サービス『声の花束』事業

前年度に引き続き、会員企業の従業員参加プログラムとして、以下の通り体験講習会および社内サークル活動への協力を行なった。

- ・企業向け体験講習会を実施
 - ・ゴールドマン・サックス証券株式会社（Community Team Worksに参加）
- ・従業員による音訳ボランティア活動への協力（専用サイトへの掲載）
 - ・ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社
 - ・株式会社NTTドコモ、ドコモ・サポート株式会社

2) フィランソロピー名刺事業

（単位：件、1件は100枚）

	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
制作件数	381	412	406	343

3) インターンシップ受入れ事業

これからの社会貢献活動を担う次世代の育成を目的として、専修大学から1名、文教学院大学から4名、合計で5名の学生をインターンシップとして受け入れた。

Ⅳ. 当協会の会員の推移

当協会の会員数の推移は以下のとおりである。（数字は各年度末の会員数）

<参考>

	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年5月
正会員	47	49	43	39	37	36
賛助会員(法人)	56	54	61	69	74	78
計	103	103	104	108	111	114

以上